

学位論文要旨

保健体育科教員養成課程学生の
教師の知識の発達に関する基礎的研究

ー リフレクションに表出する「体育の授業における知識」に着目して ー

広島大学大学院教育学研究科
教育学習科学専攻 教科教育学分野
健康スポーツ教育学領域

D182825 濱本 想子

1. 研究の背景

グローバル化と知識基盤社会の到来を背景として、教師教育改革はどの国においても国家政策の中心となり、教育の質を高めるために教師の質の向上が求められている。教師教育は、1970年代以前には行動科学に基づいて教師の心構えや能力の向上を追求する「資質アプローチ」によって行われていた。しかし、1980年代以降には認知科学の台頭により、専門性基準を基盤に教師の知識の向上を追求する「知識アプローチ」へとパラダイム転換がなされている（佐藤，2015）。例えば、経済協力開発機構（OECD）の教育研究革新センター（CERI）は、2017年に『*Pedagogical Knowledge and the Changing Nature of the Teaching Profession*（教授学的知識と変わりゆく教職の性質）』（Guerrero, 2017）を刊行し、教師教育について教師の知識に着目した調査結果がまとめられている。そして、今後の教師教育研究の課題として、時代や社会の要請に伴って創造される新たな教師の知識を探求し続けることや、教員養成の改善のために、教師の知識に関する学習機会やその成果に関する調査の必要性が述べられている。しかしながら、佐藤（2015）によると、教職の専門性基準が存在せず、依然として「資質アプローチ」をとる日本の教師教育は世界から大きく遅れ、「知識アプローチ」への移行が喫緊の課題である。

教師の知識の獲得や発達には、実践とリフレクションが重要であることが明らかにされている。日本の授業研究は、実践と結び付けながら組織的に知識を生み出す機会として着目されている（Hiebert et al., 2002）。日本において、授業研究の文化は現職教育だけでなく教員養成にも根付いており、模擬授業や教育実習などの授業実践を伴う場面では、授業の計画から、実践、振り返りという一連の授業研究のスタイルがとられている場合が多い。つまり、日本の教員養成において、模擬授業や教育実習は、実践とリフレクションを繰り返して、教師の知識を獲得・発達させることのできる機会として大いに期待ができる。

では、教職の専門性基準が存在せず、「知識アプローチ」をとることができていない日本の教員養成において、どのような教師の知識が、いかに養われているのであろうか。知識研究に関して欧米に遅れをとっている日本において、知識の視点から学生の成長過程の解明や、教員養成の成果及び課題の検討は焦眉の課題であろう。

2. 研究の目的と課題

特に、保健体育科は知識研究の蓄積が浅く、事例を集積することの必要性が指摘されている（浜上，2012；山口，2010）。そこで本論文では、保健体育科教員養成課程に焦点を当て、学生が体育の授業実践を通してどのような教師の知識を獲得し、どのように発達させるのか、その過程について事例的に明らかにすることで、保健体育科教員養成の改善に向けた示唆を得ることを目的とする。また、この目的を達成するために以下の研究課題を設定した。

- (1) 保健体育科教員養成課程の学生が保持する教師の知識の実態とはどのようなものか.
- (2) 保健体育科教員養成課程における模擬授業実践と教育実習での授業実践を通して、学生はいかに教師の知識を発達させるのか.
- (3) 教師の知識の視点から見た保健体育科教員養成の成果と課題を踏まえ、今後はどのように改善されるべきか.

なお、本論文では、教師の知識として体育の授業で活用される知識に着目して「体育の授業における知識」と称し、研究を進めることとした。

3. 本論文の構成と研究の方法

本論文を6章で構成し、以下の4つの段階に基づいて調査を実施した。とりわけ、本論文では教科教育研究に長けている国立大学法人X大学教育学部（以下、X大学教育学部と明記）の保健体育科教員養成課程を対象とした。授業実践としては、「教科の指導法」で実施される体育の模擬授業実践と、教育実習での体育の授業実践に着目した。

第1に、本論文の課題を整理し、「体育の授業における知識」の特徴と発達について演繹的に分析するための枠組みを作成した。これは、第1章の内容である。関連する先行研究を整理し、学生の授業実践に対するリフレクションに表出する「体育の授業における知識」を分析の対象として、その特徴や発達について調査することとした。

分析の枠組みについて、本論文では日本において広く認知され教科別の解釈も行いやすいことから、吉崎（1987）の「授業についての教師の知識領域」（図1）を基盤として用いることとした。「授業についての教師の知識領域」では、複雑な教師の知識が3つの単一的な知識（領域1—3）とそれらが統合してなる4つの複合的な知識（領域A—D）の7つの領域に構造化されており、教師の知識を重層的に捉えることができる。さらに、吉崎（1987）は各領域について定義づけをしている。そこで、「体育の授業における知識」の分類を行いやすくするために各領域の定義を意味のまとまりごとに区切り、カテゴリーとした。加えて、体育授業の文脈により即すため、関連する先行研究（福ヶ迫ほか，2005；シーデントップ，2003；Siedentop and Tannehill, 2000）を参考に、「授業についての教師の知識領域」から作成したカテゴリーに新たなカテゴリー及び語句を追加して「体育の授業における知識カテゴリー」を作成した（表1）。この分析の枠組みに沿って、学生の授業実践に対するリフレクションに表出する「体育の授業における知識」を演繹的に分析し、領域・カテゴリーごとに割合を算出することとした。

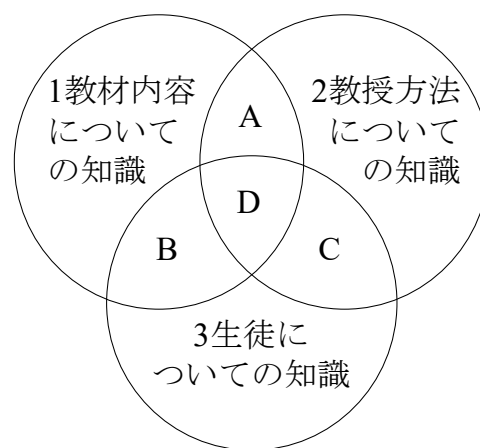


図1 授業についての教師の知識領域（吉崎，1987）

表 1 体育の授業における知識カテゴリー

領域		吉崎（1987）の定義	カテゴリー	
1	教材内容についての知識	その教材の中心的概念や概念間の相互関係，さらには他の教材との関係などについての知識．	教材の中心概念	
			他の教材との関係・概念間の相互関係	
2	教授方法についての知識	「導入・展開・まとめ」などといった授業構造，講義法や発見学習といった学習指導法，さらには授業におけるマネジメントやしつけなどについての知識．	授業及び単元の構造	
			学習指導法	
			マネジメント	授業開始時
				移動
				勢いとペース・雰囲気
				相互作用・フィードバック
				予防的マネジメント
学習環境	安全管理（場所・置き場・服装・用具・教師の立ち位置）			
	場・時間・用具の設定			
		しつけ		
3	生徒についての知識	一般的な発達段階における生徒の認知的・情意的，さらには個々の生徒の知的・人格的特性などについての知識．	一般的な発達段階の生徒の認知的・情意的特徴	
			個々の生徒及び学習集団の知的・人格的特性	
			個々の生徒及び学習集団における技能差の特徴	
A	教材内容と教授方法についての知識	ある教材を教えるときに教師が用いる説明，演示，概念の表現例証などについての知識．	説明・指示・概念の表現・発問	
			師範・示範の仕方	
B	教材内容と生徒についての知識	ある教材について生徒がすでにもっている誤った考えや，学習における「つまずき」についての知識．	教材に対する生徒の感情	
			教材に対する生徒の理解度及び技能到達度	
			生徒に応じた教材の工夫	
			生徒の誤った考えや学習のつまずき	
C	教授方法と生徒についての知識	様々な特性やニーズをもつ生徒を教えたり，動機づけしたりする方法についての知識．	様々な特性を持つ生徒を教える	
			動機づけ	
D	教材内容，教授方法，生徒についての知識	生徒の誤りを治療するための方法についての知識．	誤りやつまずきの防止	明確な指示・説明・例示
				明確な示範・師範
			効果的なフィードバック	
			誤りやつまずきの治療	

第 2 に，教員養成の中核をなす教育実習に着目し，X 大学教育学部保健体育科教員養成課程学生を対象に教育実習での授業実践に対するリフレクションに表出する「体育の授業における知識」を演繹的に分析し，その実態や特徴及び発達について事例的に考察した。これは第 2 章の内容であり，課題（1）に対応する。具体的には，2015 年度入学生（学生 A—H）を対象に，2017 年に X 大学附属 Y 中学校で実施された教育実習にて調査を行った。また，第 1 章で作成した分析の枠組みの妥当性も検証した。

第 3 に，X 大学教育学部保健体育科教員養成課程学生を対象に，模擬授業実践と教育実習での授業実践に対するリフレクションに表出する「体育の授業における知識」の特徴をそれぞれ明らかにし，模擬授業場面から教育実習場面にかけていかに「体育の授業におけ

る知識」が発達するか、その過程を縦断的に検討した。これは、第3章—第5章の内容であり、課題(2)に対応するものである。具体的には、2017年度入学生(学生a—f)を対象に、2つの授業実践場面を通した縦断的な調査を実施した。1つ目の授業実践場面は、2018年度に実施された、「教科の指導法」での模擬授業場面であった(2年次後期)。2つ目は、2019年度にX大学附属Y中学校で実施された教育実習場面であった(3年次後期)。

第4に、これまでの結果を踏まえ、学生の「体育の授業における知識」を発達させるために、保健体育科教員養成はどのように改善されるべきか考察した。これは、第6章の内容であり、課題(3)に対応するものである。具体的には、学生のリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の分析結果から、保健体育科教員養成を通して獲得されやすい知識やその要因、課題などを整理した。そして、学生の「体育の授業における知識」をより発達させるための保健体育科教員養成の改善に向けた視点を検討した。本論文の構成を図2に、対象学生の属性を表2にまとめた。なお、表2の教職志望度は5が最も高い。

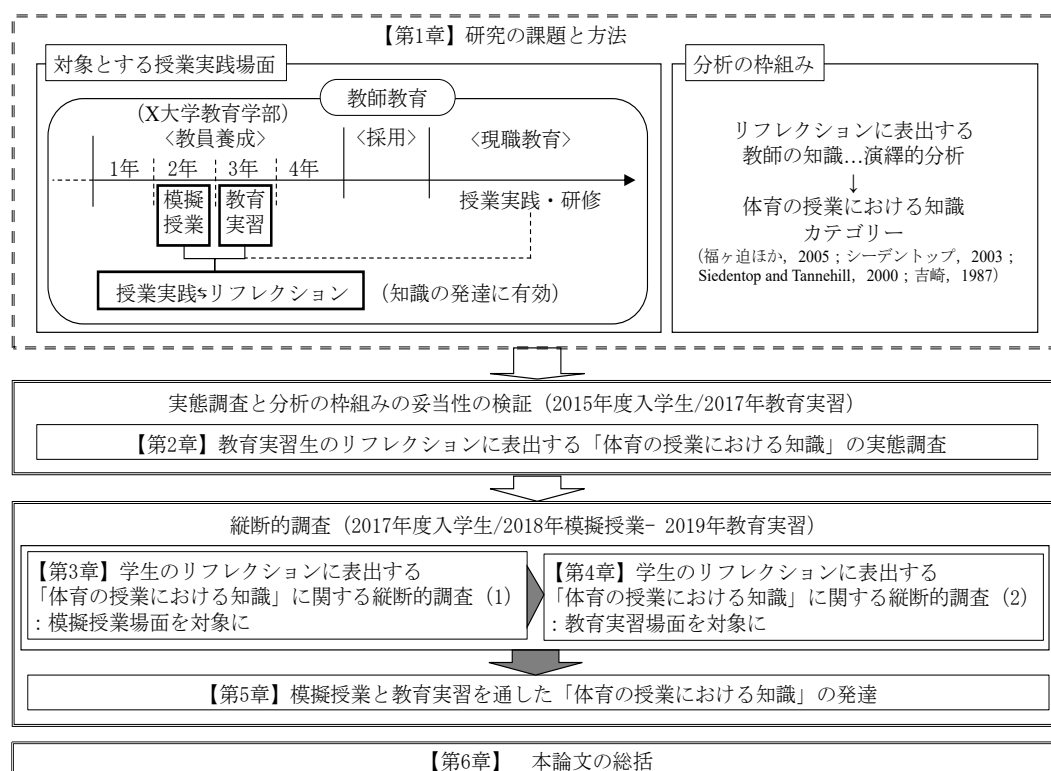


図2 本論文の構成

表2 対象学生の教職志望度と専門種目

学生	2015年度入学生								2017年度入学生					
	A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	f
該当章	第2章								第3章—第5章					
教職志望度	1	3	1	1	3	3	2	1	5	2	3	5	3	5
専門種目	水泳	バスケットボール	陸上競技	ソフトテニス	剣道	野球	バレーボール	バスケットボール	ダンス	剣道	陸上競技	バスケットボール	陸上競技	野球

4. 結果

上述した3つの課題に対して、分析及び考察の結果、以下のことが明らかとなった。

(1) 学生のリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の特徴とその発達

本論文では、吉崎（1987）の「授業についての教師の知識領域」を基盤に、体育授業の文脈により即すために関連する先行研究を参考にして「体育の授業における知識カテゴリー」を作成し、「体育の授業における知識」を分析するための分析の枠組みとして活用した。調査の結果、模擬授業場面及び教育実習場面における対象学生のデータを総合すると、全てのカテゴリーの知識の表出が確認された。表3に、第2章から第4章の調査の結果を「授業についての教師の知識領域」の領域ごとにまとめた。また、各章の調査結果の詳細は表4—6にまとめた。なお、X大学では教育実習が前・後期に分けられており、学生A—Dと学生a—cが前期教育実習に、学生E—Hと学生d—fが後期教育実習に参加した。

表3 対象学生のリフレクションに表出した「体育の授業における知識」のまとめ

領域		1	2	3	A	B	C	D
対象学生								
学生 A-H	教育実習 (前期-後期)	11.2% (9.6%-11.9%)	37.1% (48.1%-31.6%)	2.8% (3.7%-2.4%)	22.2% (14.4%-26.0%)	18.1% (13.9%-20.2%)	4.8% (8.0%-3.2%)	3.9% (2.1%-4/8%)
学生 a-f	模擬授業	11.2%	45.3%	2.4%	18.9%	10.6%	2.0%	9.7%
	教育実習 (前期-後期)	13.4% (17.2%-10.4%)	28.1% (24.2%-31.1%)	1.7% (2.3%-1.2%)	11.6% (10.2%-12.8%)	31.2% (34.4%-28.7%)	2.4% (3.9%-1.2%)	11.6% (7.8%-14.6%)

本論文の結果から、対象学生のリフレクションには「教授方法についての知識」（領域2）や関連する複合的な知識（特に、「教材内容と教授方法についての知識」（領域A））が多く表出し、その獲得は比較的容易であることが明らかとなった。一方、「生徒についての知識」（領域3）がリフレクションに表出する割合は低く、その獲得は特に模擬授業や教育実習前までの段階では難しいことが示唆された。しかし、教育実習を通してその獲得を自覚する学生は多く、教育実習で実際の生徒を目の前にすることで獲得される傾向にあった。また、領域3の知識が関連する複合的な知識（領域Bや領域C、領域D）は教育実習での授業実践や観察の経験を通して獲得が促されるという特徴があった。一方、最も複雑で教師にとって特に重要であるとされる「教材内容、教授方法、生徒についての知識」（領域D）について、課題としてリフレクションに表出することが多く、知識や経験の乏しい学生にとっては、授業実践で活かすことができるまでに発達させることが特に難しい知識であると考えられた。また、「教材内容についての知識」（領域1）は、教材研究や運動・スポーツ経験がその獲得に影響を及ぼすと考えられ、獲得を自覚する学生がいた一方、課題であったと自覚する学生も存在した。なお、模擬授業や教育実習で実践する運動領域（単元）が限られており、この知識を広く獲得することは課題であった。

表 4 学生 A—H の教育実習での授業実践に対するリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の割合（第 2 章）

領域	カテゴリ	学生A		学生B		学生C		学生D		学生E		学生F		学生G		学生H		学生A-H			
		数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%		
1	教材内容 についての知識	0	0.0	4	5.6	1	2.9	4	9.3	4	5.3	6	6.5	5	5.6	16	13.2	40	7.1		
		1	2.6	3	4.2	1	2.9	4	9.3	0	0.0	2	2.2	1	1.1	11	9.1	23	4.1		
	授業及び単元の構造	3	7.9	7	9.9	5	14.3	4	9.3	1	1.3	7	7.6	6	6.7	6	5.0	39	6.9		
		1	2.6	3	4.2	1	2.9	1	2.3	1	1.3	5	5.4	9	10.1	7	5.8	32	5.7		
		1	2.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.8	3	0.5		
		1	2.6	7	9.9	1	2.9	2	4.7	2	4.7	1	1.3	4	4.3	4	3.3	21	3.7		
		2	5.3	4	5.6	2	5.7	0	0.0	0	0.0	3	4.0	4	4.3	1	0.8	17	3.0		
		1	2.6	20	52.6	0	0.0	16	45.7	1	2.3	23	30.7	1	1.1	0	0.0	7	1.2	209	37.1
		0	0.0	5	7.0	1	2.9	1	2.3	1	2.3	2	2.7	4	4.3	8	6.7	22	3.9		
		5	13.2	4	5.6	2	5.7	0	0.0	0	0.0	3	4.0	2	2.2	5	5.6	28	5.0		
2	教授方法 についての知識	2	5.3	1	1.4	3	8.6	5	11.6	1	1.3	1	1.1	3	3.4	1	0.8	17	3.0		
		0	0.0	5	7.0	1	2.9	2	4.7	2	4.7	5	6.7	3	3.3	3	3.4	23	4.1		
	マネジメント	4	10.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	2.2	0	0.0	0	0.0	2	0.4
		0	0.0	4	5.6	1	2.9	0	0.0	0	0.0	2	2.7	0	0.0	2	1.7	11	2.0	16	2.8
		0	0.0	1	1.4	1	2.9	0	0.0	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	0.5
		0	0.0	1	1.4	1	2.9	0	0.0	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	0.5
		6	15.8	2	2.8	4	11.4	8	18.6	20	26.7	24	26.1	24	26.1	12	13.5	27	22.3	103	18.3
		3	7.9	0	0.0	2	5.7	2	4.7	10	23.3	4	5.3	3	3.3	1	1.1	7	5.8	22	3.9
		1	2.6	1	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	5.4	1	1.1	1	0.8	11	2.0
		3	7.9	7	9.9	2	5.7	5	11.6	6	14.0	11	14.7	7	7.6	11	12.4	18	14.9	64	11.3
3	教材内容 と生徒に ついての知識	1	2.6	3	4.2	1	2.9	1	2.3	1	1.3	1	1.1	18	19.6	2	1.7	12	2.1	102	18.1
		0	0.0	0	0.0	1	2.9	0	0.0	0	0.0	2	2.7	5	5.4	4	4.5	3	2.5	15	2.7
	教授方法 と生徒に ついての知識	2	5.3	6	8.5	4	11.4	2	4.7	2	4.7	0	0.0	1	1.1	3	3.4	1	0.8	19	3.4
		1	2.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	2.2	3	3.4	2	1.7	3	0.5
		0	0.0	1	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.3	3	3.3	3	3.4	1	0.8	9	1.6
		0	0.0	1	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.2
		0	0.0	0	0.0	1	2.9	1	2.3	1	2.3	4	5.3	0	0.0	3	3.4	7	5.8	10	1.8
		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.1	1	0.8	2	0.4
		38	100.0	71	100.0	35	100.0	43	100.0	43	100.0	75	100.0	92	100.0	89	100.0	121	100.0	564	100.0
		合計		38	100.0	71	100.0	35	100.0	43	100.0	43	100.0	75	100.0	92	100.0	89	100.0	121	100.0

表 5 学生 a-f の模擬授業実践に対するリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の割合（第 3 章）

領域	学生 a			学生 b			学生 c			学生 d			学生 e			学生 f			学生 a-f											
	数	%	計	数	%	計	数	%	計	数	%	計	数	%	計	数	%	計	数	%	計									
1 教材内容 について の知識	カテゴリー	6	5.8	16	15.4	8	7.8	12	9.9	9	4.8	21	11.3	9	7.1	16	12.7	31	4.1	84	11.2									
	教材の中心概念	10	9.6								12	9.9			9	8.0			53	7.0										
	他の教材との関係・概念間の相互関係	3	2.9								4	3.3			3	2.7			22	2.9										
	授業及び単元の構造	1	1.0								3	2.9			5	4.4			26	3.5										
	学習指導法	0	0.0								0	0.0			0	0.0			3	2.4										
	授業開始時	2	1.9								3	2.9			1	0.9			8	6.3										
	移動	1	1.0								4	3.3			1	0.9			19	2.5										
	練習隊形	4	3.8	39	37.5	5	4.9	39	37.9	1	0.8	54	44.6	9	4.8	92	49.5	4	3.5	57	50.4	26	3.5	341	45.3					
	勢いとペース・雰囲気	7	6.7								4	3.3			9	8.0			42	5.6										
	相互作用・フィードバック	8	7.7								14	11.6			13	11.5			66	8.8										
2 教授方法 について の知識	予防的マネジメント	8	7.7							5	4.1			6	5.3			12	9.5											
	安全管理（場所・置き場・服装・用具・ 教師の立ち位置）	5	4.8							14	11.6			13	11.5			10	7.9											
	学習環境	5	4.8							22	11.8			2	1.6			2	1.6											
	場・時間・用具の設定	0	0.0							1	0.5			0	0.0			1	0.8											
	しつけ	5	4.8							1	0.5			0	0.0			1	0.8											
	一般的な発達段階の生徒の認知的・情意的特徴	1	1.0							2	1.7			6	3.2			0	0.0											
	個々の生徒及び学習集団の知的・人格的特性	0	0.0							2	1.8			2	1.8			0	0.0											
	個々の生徒及び学習集団における技能差の特徴	16	15.4	20	19.2	15	14.6	19	18.4	24	19.8	30	24.8	22	11.8	27	14.5	14	12.4	22	19.5	21	16.7	24	19.0	112	14.9			
	説明・指示・概念の表現・発問	4	3.8							6	5.0			5	2.7			8	7.1	3	2.4	30	4.0							
	師範・示範の仕方	3	2.9							7	6.8			2	1.1			2	1.8	1	0.8	18	2.4							
3 生徒に 対する 知識	教材に対する生徒の感情	5	4.8							4	3.9			10	5.4			5	4.4	9	8.0	3	2.4	33	4.4					
	教材に対する生徒の理解度及び技能到達度	0	0.0							5	4.9			4	2.2			1	0.9	5	4.0	5	4.0	19	2.5			80	10.6	
	生徒に応じた教材の工夫	1	1.0							1	1.0			6	3.2			1	0.9	1	0.8	10	1.3							
	生徒の誤った考えや学習のつまずき	4	3.8	4	3.8	2	1.9	3	2.9	1	0.8	1	0.8	1	0.5	3	1.6	2	1.6	2	1.6	2	1.6	11	1.5	15	2.0			
	様々な特性を持つ生徒を教える	0	0.0							0	0.0			2	1.1			1	0.9	0	0.0	0	0.0	4	0.5					
	動機づけ	2	1.9							7	6.8			5	2.7			4	3.5	7	5.6	28	3.7							
	明確な指示・説明・例示	2	1.9							2	1.9			2	1.1			2	1.8	3	2.4	14	1.9							
	明確な示範・師範	2	1.9	10	9.6	3	2.9	16	15.5	2	1.7	9	7.4	15	8.1	10	8.8	3	2.4	1	0.8	13	10.3	14	1.9	73	9.7			
	効果的なフィードバック	4	3.8							4	3.9			6	3.2			0	0.0	2	1.6	2	1.6	17	2.3					
	誤りやつまずきの治療	104	100.0	104	100.0	103	100.0	103	100.0	121	100.0	121	100.0	186	100.0	186	100.0	113	100.0	113	100.0	126	100.0	126	100.0	753	100.0	753	100.0	100.0
合計																														

表 6 学生 a—f の教育実習での授業実践に対するリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の割合（第 4 章）

領域	体育の授業における知識カテゴリー	学生 a			学生 b			学生 c			学生 d			学生 e			学生 f			学生 a—f										
		数	%	計 %	数	%	計 %	数	%	計 %	数	%	計 %	数	%	計 %	数	%	計 %	数	%	計 %								
1	教材内容 についての 知識	6	13.3	15	33.3	1	3.0	2	6.1	3	6.0	5	10.0	8	12.7	10	15.9	1	2.4	4	9.8	3	5.0	3	7.5	17	5.8	39	13.4	
	他の教材との関係・概念間の相互関係	9	20.0			2	3.0			2	4.0			2	3.2			3	7.3			0	0.0			0	0.0			
2	教授方法 についての 知識	0	0.0			6	18.2			4	8.0			1	1.6			1	2.4			1	1.7			13	4.5			
		授業及び単元の構造																												
		学習指導法	3	6.7			5	15.2			2	4.0			1	1.6			1	2.4			4	6.7			16	5.5		
		授業開始時	0	0.0			0	0.0			0	0.0			1	1.6			1	2.4			0	0.0			2	0.7		
		移動	0	0.0			0	0.0			1	2.0			0	0.0			0	0.0			1	1.7			2	0.7		
		練習隊形	0	0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			1	2.4			0	0.0			1	0.3		
		マネジメント																												
		勢いとペース・雰囲気	0	0.0	4	8.9	0	0.0	12	36.4	1	2.0	15	30.0	3	4.8	15	23.8	0	0.0	13	31.7	2	3.3	23	38.3	6	2.1	82	28.1
		相互作用・フィードバック	0	0.0			1	3.0			2	4.0			2	3.2			1	2.4			2	3.3			8	2.7		
		予防的マネジメント	0	0.0			0	0.0			0	0.0			5	7.9			4	9.8			6	10.0			15	5.1		
		安全管理（場所・置き場・服装・ 用具・教師の立ち位置）	0	0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			1	2.4			4	6.7			5	1.7		
		学習 環境	1	2.2			0	0.0			4	8.0			1	1.6			3	7.3			2	3.3			11	3.8		
場・時間・用具の設定	0	0.0			0	0.0			1	2.0			1	1.6			0	0.0			0	0.0			1	1.7				
しつけ	0	0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0				
3	生徒に ついての 知識	1	2.2			0	0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			1	0.3			
		一般的な発達段階の生徒の認知的・情意的特徴																												
		個々の生徒及び学習集団の知的・人格的特性	0	0.0	1	2.2	0	0.0	1	3.0	1	2.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.4	1	1.7	1	1.7	3	1.0	5	1.7
A	教材内容 と教授方 法につい ての知識	0	0.0			1	3.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			
		個々の生徒及び学習集団における技能差の特徴	0	0.0			1	3.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			1	0.3		
		説明・指示・概念の表現・発問	2	4.4	2	4.4	2	6.1	3	9.1	6	12.0	8	16.0	3	4.8	5	7.9	4	9.8	7	17.1	7	11.7	9	15.0	24	8.2	34	11.6
		師範・示範の仕方	0	0.0			1	3.0			2	4.0			2	3.2			3	7.3	2	3.3	2	3.3			10	3.4		
B	教材内容 と生徒に ついての 知識	5	11.1			2	6.1			4	8.0			6	9.5			1	2.4			1	1.7			19	6.5			
		教材に対する生徒の感情																												
		教材に対する生徒の理解度及び技能到達度	11	24.4	19	42.2	5	15.2	10	30.3	7	14.0	15	30.0	9	14.3	23	36.5	6	14.6	8	19.5	9	15.0	16	26.7	47	16.1	91	31.2
		生徒に定めた教材の工夫	2	4.4			1	3.0			2	4.0			4	6.3			1	2.4			4	6.7			14	4.8		
C	教授方法 と生徒に ついての 知識	1	2.2			2	6.1			2	4.0			4	6.3			0	0.0			2	3.3			11	3.8			
		生徒の誤った考えや学習のつまずき																												
		様々な特性を持つ生徒を教える	0	0.0	0	0.0	1	3.0	1	3.0	1	2.0	4	8.0	0	0.0	1	1.6	0	0.0	1	2.4	0	0.0	0	0.0	2	0.7	7	2.4
D	教材内容、 教授方法、 生徒につ いての 知識	0	0.0			0	0.0			3	6.0			1	1.6			1	2.4			0	0.0			5	1.7			
		動機づけ																												
		明確な指示・説明・例示	1	2.2			3	9.1			1	2.0			2	3.2			4	9.8			3	5.0			14	4.8		
		明確な示範・師範	0	0.0	4	8.9	1	3.0	4	12.1	0	0.0	2	4.0	0	0.0	9	14.3	1	2.4	7	17.1	0	0.0	8	13.3	2	0.7	34	11.6
合計	効果的なフィードバック	2	4.4			0	0.0			0	0.0			3	4.8			2	4.9			2	3.3			9	3.1			
	誤りやつまずきの 防止	1	2.2			0	0.0			1	2.0			4	6.3			0	0.0			3	5.0			9	3.1			
合計		45	100.0	45	100.0	33	100.0	33	100.0	50	100.0	50	100.0	63	100.0	63	100.0	41	100.0	41	100.0	60	100.0	60	100.0	292	100.0	292	100.0	

次に、対象学生のリフレクションに表出した「体育の授業における知識」から、その発達について整理する。本論文の結果から、対象学生は模擬授業場面や教育実習場面での授業実践やリフレクションを蓄積することで、徐々に獲得した単一的な知識を統合させ、複合的な知識へと発達させることが明らかとなった。特に、模擬授業場面では領域1と領域2の知識の統合が促されやすいこと（領域Aへの発達）、教育実習場面では領域1と領域3の知識の統合が促されやすいこと（領域Bへの発達）、そして、教育実習場面での授業実践及び観察の経験を通して徐々に領域2と領域3の知識の統合（領域Cへの発達）や領域1—領域3の知識の統合（領域Dへの発達）が促されるといった順序性があることが推察された。さらに、対象学生の「体育の授業における知識」の発達には、自己の授業実践のみならず、他者の授業実践の観察や協議会での振り返りなど、他者とのコミュニティの中での学びが効果的であることが明らかとなった（図3）。

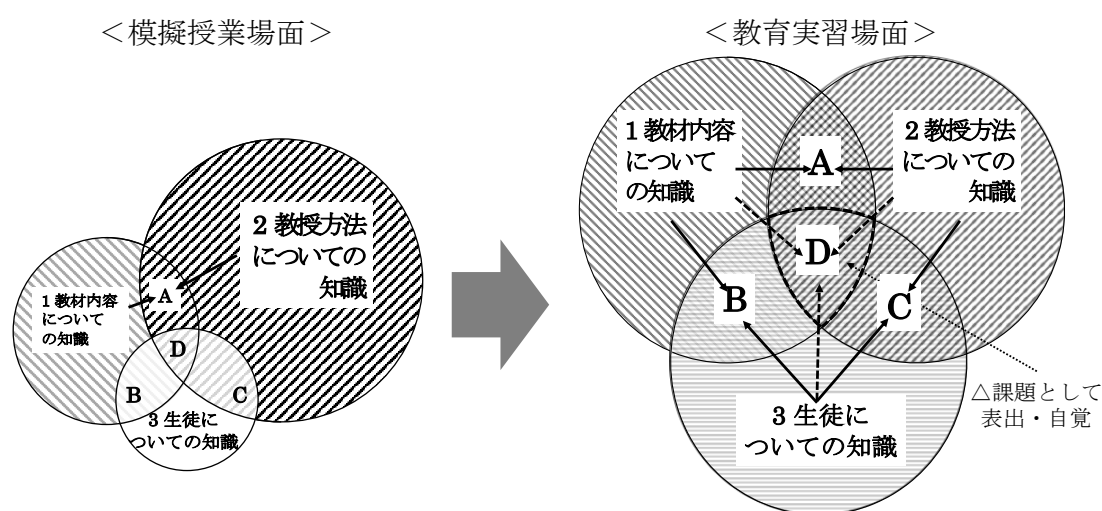


図3 模擬授業及び教育実習を通した「体育の授業における知識」の発達

(2) 保健体育科教員養成の改善の視点

本論文で明らかとなった、対象学生のリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の特徴とその発達に関する結果から、「授業についての教師の知識領域」(吉崎, 1987)の領域ごとに獲得(発達)を促進した要因と課題, それらを踏まえ, 保健体育科教員養成における指導の工夫について表7に整理した。なお, 表7中の獲得の難易度については, ◎が最も獲得が容易であることを表現しており, ○, △, ▲の順で獲得が困難であることを示している。

表7 保健体育科教員養成における「体育の授業における知識」の発達を促す要因と課題及び指導の工夫

知識領域	獲得の難易度	獲得（発達）の促進要因	課題	保健体育科教員養成における指導の工夫	
単一的な知識	1 教材内容についての知識	○	・学生らの教材研究 ・これまでの運動やスポーツ経験	授業実践を経験した種目（領域）以外の教材内容の知識の獲得状況が不明瞭.	→指導法や専門科目の講義を通した教材内容の知識の広まり（深まり）と獲得状況の確認
	2 教授方法についての知識	◎	・模擬授業や教育実習での授業実践や他者の模擬授業観察	獲得がしやすいため、よりその獲得や深まりを期待できる.	→指導法の講義を通した教授方法の知識の広まり（深まり）や実践機会の充実
	3 生徒についての知識	△	・教育実習での授業実践や観察、指導教員の指導、日々の観察	実際の生徒と対面しなければ獲得しにくく、模擬授業場面では獲得しにくい.	→指導法の講義を通した生徒についての知識の指導の充実（特に、体育に関連させながら指導することが重要）
複合的な知識	A 教材内容と教授方法についての知識	◎	・模擬授業実践 ・教育実習での授業実践	獲得がしやすいため、よりその獲得や深まりを期待できる.	→指導法や専門科目の講義を通した教授方法の知識の広まり（深まり）や実践機会の充実
	B 教材内容と生徒についての知識	○	・教育実習での授業実践	この知識の獲得には、領域1の知識が充実しているか否かが作用する.	→指導法や専門科目の講義を通した教材内容や生徒についての知識に関する指導の充実 →統合を促すような指導
	C 教授方法と生徒についての知識	△	・教育実習での授業実践	この知識の獲得には、領域3の知識が充実しているか否かが作用する.	→指導法の講義を通した教授方法や生徒についての知識に関する指導の充実 →統合を促すような指導
	D 教材内容、教授方法、生徒についての知識	▲	・教育実習での授業実践	課題として気づくことはできても、実践で発揮するまでにはいかない。 また、単一的な知識の不足が影響する.	→指導法や専門科目の講義を通した単一的な知識に関する指導の充実 →統合を促すような指導 →教育実習での指導の充実

以上を踏まえ、知識の視点からみた保健体育科教員養成の改善の視点を、講義場面、模擬授業場面、教育実習場面、教職実践演習場面の4つの場面に分け提示することができた。

講義場面では、教科教育と教科専門の講義の連携を強め、単一的な知識の獲得を促すこと（知識の広まり）。模擬授業場面では、授業実践や観察、リフレクションなどを通した知識統合の機会を作り、実践的知識の獲得とそれに対してリフレクションをする力を養うこと（知識の統合・発達）。教育実習では、生徒に関する知識の獲得やより複雑な実践的知識の獲得を促すこと（知識の統合・発達、深まり）。また、指導教員に知識の観点から指導する力を養うこと。そして、教職実践演習場面では、学生の知識レベルに関するチェック機能を強化すること（知識の確認・評価・定着）が重要であると考えられた。以上の4つの

場面は、教員養成を担う大学では一般的なカリキュラムの順番となっているだろう。本論文では、カリキュラム編成というよりも教職の専門性基準がない日本において、先に示した4つの場面の特徴を活かしつつ、知識に焦点を当てた「知識アプローチ」から保健体育科教員養成を改善する視点を提唱した（図4）。

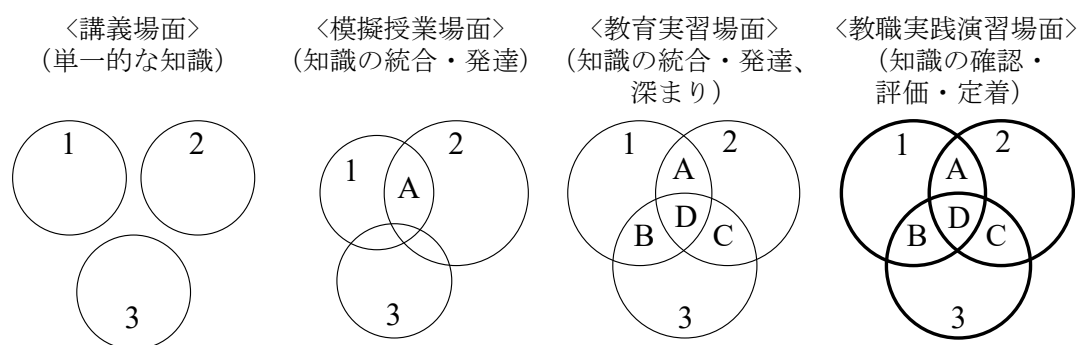


図4 知識の視点からみた保健体育科教員養成の改善の視点

5. 今後の課題

本論文では、知識という視点から X 大学教育学部の保健体育科教員養成課程学生の実態を調査し、保健体育科教員養成の改善の視点について検討することができた。特に、本論文の成果は、授業実践に対するリフレクションに表出する「体育の授業における知識」について演繹的な分析と縦断的な調査を行ったことで、学生の「体育の授業における知識」の発達について探究することができたことである。

一方、本論文では X 大学教育学部を対象としたため、事例的な調査及び結果の提示にとどまった。そこで、今後は調査対象を拡大し、各大学の実態や保健体育科教員養成の成果及び課題を調査することで、より具体的、かつ一般的な知識の発達を促す手立てや保健体育科教員養成の改善の視点及び方策を考究していく必要があるだろう。また、本論文で分析の対象とした「体育の授業における知識」について、その良し悪しや質などを評価する基準が明確でないため、対象学生の知識の良し悪しや質については言及することができなかった。そのため、今後は知識研究を蓄積し、知識の良し悪しや質を評価できるような基準の検討が必要であろう。

引用・参考文献

- 福ヶ迫善彦・鄭ジュ赫・米村耕平・細越淳二・高橋健夫（2005）小学校体育授業における教師のマネジメント方略に関する検討－特に，ボール運動単元の分析から－．スポーツ教育学研究，25（1）：27-42.
- Guerrero, S. (2017) *Pedagogical Knowledge and the Changing Nature of the Teaching Profession*. OECD Publishing.
- 浜上洋平（2012）体育教師志望学生の教材内容についての知識が相互作用行動に及ぼす影響－3名の教育実習生を対象とした事例的検討－．東亜大学紀要，16：13-26.
- Hiebert, J., Gallimore, R. and Stigler, J. W. (2002) A Knowledge Base for the Teaching Profession: What would it look like and how can we get one?. *Educational Researcher*, 31(5): 3-15.
- 佐藤学（2015）専門家として教師を育てる－教師教育改革のグランドデザイナー－．岩波書店.
- シーデントップ，D.：高橋健夫ほか訳（2003）*体育の教授技術*．大修館書店．<Siedentop, D. (1983) *Developing Teaching Skills in Physical Education* (2nd ed). Mayfield Publishing Company.>
- Siedentop, D. and Tannehill, D. (2000) *Developing Teaching Skills in Physical Education* (4th ed). Mayfield Publishing Company.
- 山口孝治（2010）体育授業研究からみた教師の実践的知識と思考に関する研究の変遷と今後の展望．*佛教大学教育学部学会紀要*，9：61-72.
- 吉崎静夫（1987）*授業研究と教師教育（1）－教師の知識研究を媒介として－*．*教育方法学研究*，13：11-17.